

心は一生成長し続けます

今年の
シリーズ①

No.
029

坂井地区
家庭教育支援チーム

「心の発達段階」に沿った関わり方が大切です

8つの「心のステップ」

子どもが伸びていく過程でクリアすべき大切なステップがある。

	時期	年齢(才)	心理的課題	獲得
ステップ1	乳児	0～1	信頼感	希望
ステップ2	幼児期前期	1～3	自律性	意志
ステップ3	幼児期後期	3～6	自主性	目的性
ステップ4	学童期	6～13	勤勉性	有能感
ステップ5	青年期	13～22	主体性	忠誠心 帰属感
ステップ6	成人期	22～40	親密性	幸福愛
ステップ7	壮年期	40～64	世代性	世話
ステップ8	老年期	64～	統合性	知恵

小学生は**ステップ4**です。自主性を生かして努力や工夫をすることができなのが「勤勉性」。一方、失敗した体験から劣等感も抱きます。

たとえ失敗しても挑戦することで成功する経験が自信となり、「自分ができるんだ」という有能感を得ます。

8つの心の発達段階

体の成長は、子どもが成人する20才くらいまでです。しかし、心は一生成長しています。

左の図は有名な心理学者エリクソンの発達理論の表です。

表の上から下への順に、上の段階を克服してすぐ下の心の成長が進むと言われています。

親も祖父母もこの段階を踏みながら成長しています。親が子どもの心の発達に沿った関わり方をし各課題の危機をクリアすれば、子育て



で大事な『自己肯定感や認知能力が高い、賢い子が育つ』と言われる。子育てで困っているお母さんは、お母さん自身が心理的課題を乗り越えられずに親となり、子育てで自分と同じところで子どもがつまづく傾向にあります。子どもには小学校の時代に、ぜひ、有能感を獲得させてあげたいものです。

有能感とは、「私は〇〇ができる」と感じられる気持ちです。

〇〇ができるは、他の子と比べてできる「優越感」とは違います。

小学生の頃は自発的に課題に取り組み、努力や工夫をして目的を達成することで自分の能力に自信を持ち、次へと挑戦するのが「勤勉性」です。

もちろん、結果が出ずに悔しい思いをすることもあります。

そのとき家族からのサポートや励ましや労いで再挑戦し課題をうまく成し遂げると勤勉性を獲得します。

一方、できないことを叱られたり、否定されたり、

勤勉性を育てて「有能感」を得る

わが家の「にっこにっこ」日記

昨年度
最優秀賞

恩返し 東十郷小学校六年 小林倅奈

私は、新体そうを習っています。中学生のお姉さんをのぞけば、私がチームのリーダーです。そんな私をささえてくれているのは、お父さんとお母さんです。

練習に行くために、お母さんは、早く帰ってきて、準備を手伝ってくれます。お父さんは、上手くえんぎができなかったときに、いつもはげましてくれて、私は、「またがんばろう。」という気持ちになります。そうやって、応えんしてくれる両親に、私をもっと上手になって、恩返しをしたいです。



支援員から

Q..子どもを感情的に叱ったとき、お母さんは素直に謝った方がよいですか？

A..謝らなかつた場合について考えてみましょう。直観力の高い子は、ひどい怒り方だと感じています。そして、「そうか、親や大人は子に対して、力の強い者は弱い者に対して、地位の高い者は低い者に対して、理不尽な怒り方をしても謝らなくていいんだ」と考え、学び、覚えるのです。結果として、将来、同じような行動を取ります。正に「子供は親の鏡」ですね。

【参考書籍】
子どもの一生を決める「心の育て方」
山下エミリ 著

